

第2学年 道徳学習指導案

平成28年6月23日（木）第5校時

1 主題名 社会への奉仕 内容項目 [C 社会参画、公共の精神]

2 ねらい 社会参画の意識を高め、進んで社会に貢献しようとする意欲と態度を育てる。
教材名「喜蔵堤」（出典 春日部市の道徳『かがやく きみに』春日部市教育委員会）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

社会への奉仕とは、周りの誰かのために個人的な損得を抜きにしておこなう行為のことである。社会に奉仕したり人々のために働いたりするということは、公共の福祉（公共の精神）と社会生活の発展や向上に貢献すること（社会参画）になる。さらには、自分が社会のために役立っているという自覚をもち、充実した生き方への追求や幸福感の享受へとつながっていく。しかし、中学生の時期は、公共の精神の大切さを十分理解できず、勤労や奉仕活動をおろそかにしてしまうことも少なくない。そのため、ボランティア活動等の体験活動を通じて、その意義を実感させ、社会参画や公共の精神を養っていくことにつながるよう本主題を設定した。また、地域社会は生徒の人間形成にとって欠かすことができない大切な生活の場である。自分たちが生活をしている郷土をつくりあげてきた先人たちの努力に思いを寄せ、そのことに対する感謝のこころを持ち、進んで地域社会のために貢献しようとする心情をはぐくむこともねらいとしたい。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

中学校1年生では、3 d a y s 社会体験チャレンジを通して勤労の尊さを学んだり、PTA主催の社会福祉体験活動を通して、個性や立場を尊重し、よりよい社会の実現に取り組む態度を学んできた。そして、日々の学級活動や生徒会活動に積極的に参加するなど、人の役に立つことに充実感を感じ、学んできたことを現実の学校生活に活かそうと努めている。

しかし、生徒の中には仕方なくやっている、面倒くさいことはやらないなど、自己中心的な考え方の者も多い。したがって、この時期によりよい社会を実現しようとするために、自分も社会の一員であるという自覚を深め、進んで社会に貢献しようとする意欲と態度を育てていきたい。

(3) 資料の特質や活用方法について

本資料は、春日部市教育委員会が発行した道徳教育資料「かがやく きみに」を出典としている。この資料は春日部市が独自で作成した先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とした道徳郷土教材資料の一つで、見川喜蔵という人物

が江戸時代後半に奉仕の精神で郷土の危機を救い、地域社会に貢献したという実話をとおして、社会へ奉仕することの大切さを考えさせる資料である。

この教材を通して、主人公の心の変容をとらえさせながら、社会への奉仕の意義や大切さを感じさせるとともに社会参画の在り方について考えさせたい。

そこで、事前学習において、地域の方から喜蔵堤、過去の災害についての話を聞き、郷土への理解を深める。

また、本時において資料を読むときに聡の気持ちを付箋で整理し、気持ちの変容について理解を促していく。そのうえで、聡の気持ちに変容した場面に着目することで、話し合いの活性化を図りたい。

4 学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の観点
導入 10分	<p>1 前時に書かせた喜蔵堤についての感想を読ませる。</p> <p>○「喜蔵堤」について確認する</p>		<ul style="list-style-type: none"> 見川喜蔵の人物像のイメージを膨らませる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習目標 『地域や社会のために尽くすとはどういうことなのか』 </div>		
展開 30分	<p>2 資料を読んで聡の心情を中心に話し合う。</p> <p>○状況を確認する</p> <p>○資料の読み聞かせをする</p>		<ul style="list-style-type: none"> 主人公の気持ちを考えながら読み聞かせを聞き、2色の付箋を貼るように伝える。 付箋で話題を整理する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 桃色：聡の気持ちに共感したところ 黄色：聡の気持ちに変容したところ </div>		
	<p>(1) 部活動で小道のゴミ拾いをしたとき主人公の気持ちはどんなだったのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 面倒くさいなあ。 なんでこんなことをしなくちゃいけないんだ。 ゴミ拾いよりサッカーがしたいよ。 二度とやりたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆授業の見通しを持ち、聡の気持ちを考えようとしていたか。 ☆ゴミ拾いより部活動を優先する聡の心に

			共感することができたか。
(2) その小道は、江戸時代、喜蔵が民衆のために奉仕活動をした場所であることを知り、聡は、どのように思うようになったのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な苦難を乗り越えてきて、この道ができたのだと思った。 ・この道に来ると、助け合いながら、生きてきた人々の思いに触れる気がしたと思った。 ・部活動でゴミ拾いを「めんどくさい」と思っている自分が嫌になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌にある「喜蔵堤」という歌詞のいわれが、故郷での自然災害の復興に立ち向かった先人の行為から来ていることを考えさせる。 	
(3) 二日目、率先してゴミ拾いをするようになった聡の気持ちはどんなだったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・喜蔵のように地域のために何かできることをしたいと思った。 ・自分のことだけを考えずに、人のためになることをしようと思った。 ・喜蔵がみんなのために築いた堤をきれいにしようと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聡の気持ちを考えさせるとともに、おじさんから声をかけられた聡が、心の中でおじさんにどのような言葉を投げ返したかを考えさせる。 ・生徒の発言から気持ちよく奉仕活動をする事の大切さを実感させる。 <p>☆最初はボランティア活動に対して気が進まなかった聡が、とても前向きな気持ちで取り組むようになった心の変容を感じ取ることができたか。</p>	
3 本時の学習課題について、感じたことや考えたことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・人々や地域のために役立つことをしようとした喜蔵のような人がいたから今の生活があると感じた。 ・何気なく歩いている小道にこんないわれがあるなん 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、個人で考え、それから数人で考えを交換し、思考を深める。 ・喜蔵が行った行為は、ただ堤を強固なもの 	

		<p>て思わなかった。大切に守っていかねばならないと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を守ることはそこに住む人々だけでなく、伝統や歴史の継承につながると思った。 	<p>にただけではなく、地域全体を支え育んだことをおさえる。</p>
終末10分	4 校歌を斉唱する。		<ul style="list-style-type: none"> ・校歌のCDを用意する。 ☆社会に貢献しようとする気持ちになったか。

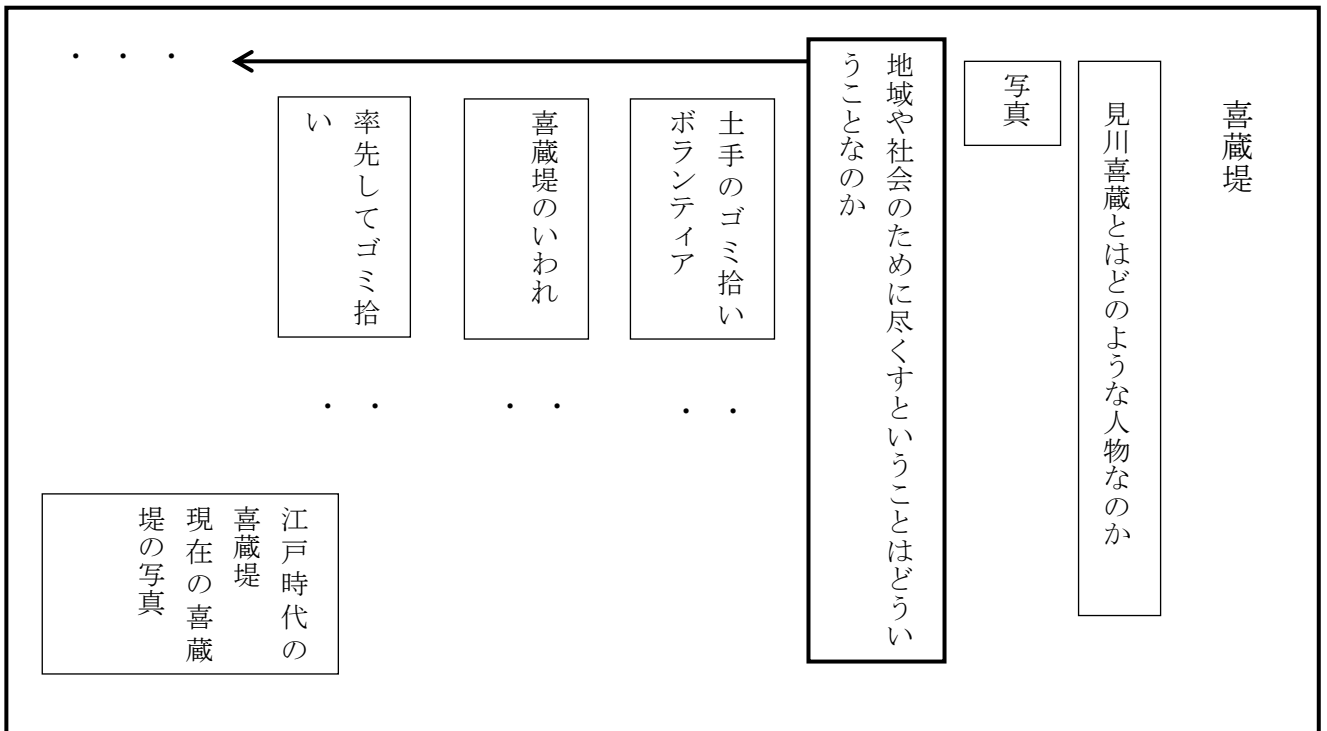
5 他の教育活動等との関連

事前学習	<p>地域の方から「喜蔵堤」について話を聞く。</p> <p>春日部市（緑中学区）の過去の災害について話を聞く。</p> <p>（講師；郷土資料館）</p> <p>資料を事前に読み、心に残ったところに線を引いておく。</p>
道徳の時間	<p>資料名「喜蔵堤」</p> <p>社会奉仕の精神やボランティア活動の意義などを養う。また、郷土を愛し地域社会をより良いものにしようとする態度を育てる。</p>
事後学習	<p>「私たちの道徳」の「4社会に生きる一員として（8）ふるさとの発展のために」を読み、その部分（P201）を教室に掲示する。</p>
家庭との連携	<p>本時の授業内容や生徒の感想を学年通信で紹介する。家庭でも「私たちの道徳」P200～205を活用し話題にしてもらう。また、話題になったことを学年通信で紹介する。</p>

6 評価の観点

- ・見川喜蔵の生き方から勤労や奉仕活動に積極的に参加しようとする気持ちをもつことができたか。（発言）
- ・校歌に歌われている「喜蔵堤」のいわれを知り、先人のように地域社会のために貢献しようという気持ちをもつことができたか。（発言・ワークシート）

7 板書計画



8 資料吟味表

ね ら い；社会参画の意識を高め、進んで社会に貢献しようとする意欲と態度を育てる。 [C 公共の精神] 関連項目[C 郷土を愛する態度]
 授業者の意図；春日部市が編纂した道徳資料に本校学区の「喜蔵堤」が載っている。歴史ある学区の財産を生徒たちに学ばせることによって、郷土愛や奉仕の精神をはぐくみたい。また、見川喜蔵の偉業から地域や社会のために働くことの意義を考えさせたい。なお、郷土歴史家 須賀芳郎氏から喜蔵堤のことを学び、現在もその堤が市民の生活に欠かすことのできない働きをしていることなどを知る機会としたい。

中心発問；地域や社会のために尽くすとはどういうことなのだろうか。

意 図；見川喜蔵は飢饉に苦しむ地域の人々を助けたり、洪水を防ぐために堤を私財をなげうって作ったり、進んで地域社会に貢献した。皆が安心・安全に生活するために必要なことであり、地域や社会を維持するのに大切なことである

・その小道は喜蔵が民衆のために奉仕活動をした場所であることから喜蔵の行為の意味を考える。

発問；なぜ、その小道が「喜蔵堤」とよばれるようになったのか。
 意図；喜蔵の行いに感謝の気持ちを持ち、末永くその功績を讃えようとする地域社会の人々の思いを考える。

他者理解

価値理解

人間理解

ゴミ拾いよりサッカーの練習をしたいと思っている聡の心情を理解させ共感させる。

発問；部活動で小道のゴミ拾いをしたときの聡はどんな気持ちだろうか。
 意図；その小道の意味を知らず、ゴミ拾いという奉仕活動に不満を持ち、サッカーの練習をしたいと思っている聡の気持ちを考える。

人間理解

他者理解

・その小道は見川喜蔵の心が宿っていることに気付かせ、本時のねらいに迫る。

発問；喜蔵堤のいわれやおじいさんの言葉から声をかけられた聡はどのような気持ちになったのか。
 意図；見川喜蔵は困っている民衆を助けようと私財を投げ出すなどして堤を作った。その思いを考えさせる。

人間理解

価値理解

・二日目、率先してゴミを拾う聡の姿から勤労の意義や奉仕活動をする大切さを考えさせる。

発問；率先してゴミを拾う聡の気持ちはどんなだったのだろうか。
 意図；地域や社会に尽くすことは自分たちの生活を守ることであると気づき、今後の生き方に活かそうとする態度の深まりを図る。

自己理解

価値理解